

「授業中の沈黙 ②」

260611

今回は、前回の「沈黙は禁なり」とは全く正反対の言葉についてです。

授業で大切なことは、みんなでかかわりながら、深めていく時間であることは間違いありません。一人の考えに仲間の考えを加えることで、より広く、深い思考につながっていきます。

一方で、仲間とかかわることで得た情報をもとに自分自身の考えを整理すること、自分なりの考えを再確認することも同じように大切な時間になります。聞きっぱなしでは、仲間との交流の価値は十分なものにはなりません。元々の自分の考えを話し合いによって、より強化された考えや、新しい考えに更新していく時間も欠かせません。その時間こそが、「自ら学ぶ」「主体的に学ぶ」時間であり、自分の頭の、心の奥底に刻み込まれていく、自らが獲得した学びになっていきます。そこで、この言葉をみなさんに贈ります。それは、

沈黙は金なり

という言葉です。静かに自分の考えを更新する、確かにする「沈黙」の時を持つことは、「金」のように価値のあることなのです。

授業では、「交流すること」と「更新すること」をバランスよく繰り返してくれることを願っています。